2024年12月6日

「COP29速報セミナー」

グローバル・ストックテイク（GST）COP29の結果

気候変動とエネルギー領域　フェロー

津久井　あきび

IGES

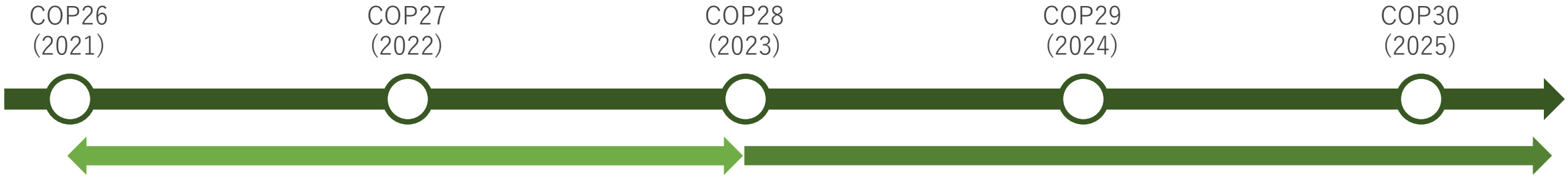
公益財団法人

地球環境戦略研究機関

第1回グローバル・ストックテイク（GST）は終わったのでは？

第1回GSTは2023年COP28で決定文書の採択を以て終了。GSTはフォローアップ期間に突入。

グローバル・ストックテイク：GSTとはパリ協定の長期目標達成に向けた世界全体の進捗を5年毎に評価する仕組み。各国はGSTの成果を考慮して次期削減目標（NDC）を策定することが求められる。



第1回GST

GSTの決定文書[1)]には、進捗評価結果だけでなく、今後の行動の方向性も盛り込まれた。特に緩和に関しては、世界全体でのセクター別の目標も合意された（=GSTの成果）。

- 2030年までに再エネ発電容量を世界全体で3倍
- 2030年までにエネルギー効率改善率を2倍
- 化石燃料からの脱却
- 2030年までに森林減少・劣化を食い止め回復させる

フォローアップ期間

様々な主体がGSTの成果の実施や進捗評価に取り組んでいる。

- 各国によるNDCや国内政策を通じた実施
- 国際機関・研究機関による進捗評価
- UNFCCC、パリ協定の制度・仕組みを通じたフォローアップ

▶ パリ協定のもとで、包括的なフォローアップの仕組み作りが議論されている。

1) 決定1/CMA.5

GST交渉の焦点：GSTの実施に関するUAE対話

GST決定文書において「GSTの成果の実施に関するUAE対話」の設置が決定。2028年COP33で終了。
COP29ではUAE対話の実施方法を決定し、2025年から対話を開始することを目指していた。

対話

合意形成を図る交渉とは異なり、各国の交渉官やオブザーバーが対話の目的に沿って意見交換や経験の共有を行う場。場合によっては、意見の違いを理解し、その相違を埋める手段を模索することや、別途開催される交渉会合に向けた意見出しの場としての役割も果たす[1)]。

対話の実施に必要なこと

実施範囲（目的）	実施方法					
何のために？	いつ？	どこで？	誰が？	どうやって？	検討の情報源は？	どんな成果を出す？

交渉の論点はこちらだった

COP29で決定することが求められていた

実施方法そのものに関する議論は比較的建設的に進んだ。一方で、**実施範囲で意見の隔たりが埋まらず、合意に至らなかった。**

1) 発表者の経験に基づく。「対話」関する公式な定義はない。

合意に至らなかった背景

UAE対話設立背景に対する見解の不一致

- 第1回GST決定文書の「**資金**」**セクション**に記載
- UAE dialogue on implementing the global stocktake outcomes - GSTの成果の実施に関するUAE対話

► **対話の実施範囲を巡り、「資金」に焦点を当てるべきとの意見と、GSTの成果全般をフォローアップすべきとの意見が対立**

緩和のフォローアップを巡る対立

- GST決定文書は、UNFCCC 及びパリ協定下の関連する作業計画や組織に対し、第1回GSTの成果を今後の実施計画に取り入れるよう要請
- 一方、化石燃料を含むセクター別の議論には強い反発があり、既存の作業計画（緩和作業計画）でフォローアップする仕組みを確保する見通しは立たなかった。*「化石燃料を含む特定のセクターを標的にしたテキストは一切受け付けない」（11月21日のプレナリーにおけるサウジアラビア（アラブグループ）の発言*[1)]

► **UAE対話が緩和に関する決定事項のフォローアップの場として認識された**

対立構造	UAE対話設立背景に対する見解の不一致	緩和のフォローアップを巡る対立
同志途上国 アラブグループ	対話の実施範囲は資金に特化すべき	第1回GSTは終了したのでGST成果の実施進捗の把握は不要。いかなるフォローアップも受け入れない
主要先進国	対話の実施範囲はGSTの成果全般とすべき	エネルギーや森林など、緩和に関する決定事項を議論する場所を確保し、実施状況をチェックすべき
小島嶼国、中南米・カリブ海独立連合、後発開発途上国	対話の実施範囲は、資金・実施手段と支援に焦点をおいた全てのGST成果とすべき	

1) Open-ended single-setting “Qurultay” convened by the COP29 President

議長国アゼルバイジャンが合意形成を図るも、文書は採択されず

議長国アゼルバイジャンによるテキスト

11月22日時点のテキスト[1)]

第1回GSTの成果を実施する上での全体としての進捗状況を検討することを目的とし、エネルギーや森林に関する決定事項を実施に移すことの重要性が強調され、これらの取り組みに関する進捗報告書を作成することなどが盛り込まれていた。また、グリッド（送配電網）やエネルギー貯蔵の導入目安量なども含まれていた。

閉会プレナリーに送られたテキスト[2)]

「対話は、緩和および適応、並びに実現要因としての資金、能力構築、技術開発・移転をカバーする第1回GSTの成果の実施に関する並行したトラックから構成される」との表現に変更され、**フォローアップに関する要素が落とされた。**

緩和の重要性・強化を訴える国々が採択に反対

閉会プレナリーにおいて、中南米・カリブ海独立連合、小島嶼国、環境十全性グループ（スイス韓国墨など）が文書の採択に反対。アンブレラグループ（日米豪加など）もGSTの野心的な要請を前進させるための議論を遅らせ妨害する一部の国に失望を表明。**2025年CMA7で合意すべく、2025年6月の交渉会合（SB62）で検討を継続することが決定。**

1) https://unfccc.int/sites/default/files/resource/UAE_dialogue_12.pdf
2) https://unfccc.int/sites/default/files/resource/cma2024_L21_adv.pdf

まとめ

COP29では、GSTのフォローアップの仕組みである「GSTの成果の実施に関するUAE対話」がGST関連交渉の焦点となった。対話の実施方法が決定し、2025年からの対話開始が期待されていた。しかし、対話の設置背景を巡る見解の不一致や緩和のフォローアップを巡る対立により、合意には至らなかった。引き続き、2025年6月に実施される交渉会合で議論される。

COP28での決定事項の進捗を包括的に把握する仕組みの立ち上げが遅れることになる。様々な場所で着実に実施されているGSTの成果を透明性のある形で管理するためにも、UAE対話の早期開始が望まれる。

各国のNDCの提出が始まる

UAE、ブラジルが次期NDCを提出。英国も削減目標を発表。

国際機関・研究機関による進捗評価が実施されている

再エネ3倍、省エネ改善効率倍増に関しては、IRENAやIEA等が報告書を発表している。

アゼルバイジャン議長国イニシアチブとしてプレッジ（誓約）や宣言が発表された

GSTで合意されたエネルギー関連の目標を受け、議長国アゼルバイジャンはエネルギー貯蔵とグリッドとグリーンエネルギーゾーンと回廊に関するプレッジ、水素に関する宣言を発表。

ご清聴ありがとうございました。

気候変動とエネルギー領域／フェロー

津久井　あきび

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関